

会議議事録

会議名	第1回学校関係者評価委員会	
開催日時	2019年6月22日(日) 13:00~14:00	
開催場所	彰栄リハビリテーション専門学校 会議室	
参加委員	参加者7名	滝澤賢史、西谷剛、夏目啓祐、小林峻、草野考昭 森倉麗子、佐藤智恵子
	欠席者1名	鈴木康洋
配布資料	1. 2019年度学校関係者評価委員会委員名簿 2. 2018年度自己点検及び自己評価報告書	
会議録	<p>1. 副校長挨拶（森倉） 開会の挨拶。校長欠席の為、副校長が代理で挨拶。</p> <p>2. 委員長挨拶（滝澤） 愛誠病院 医事統括課長の滝澤様に委員長をお受けいただき、ご挨拶を頂いた。</p> <p>3. 今年度の報告（森倉）</p> <p>(1) 2018年度に教員数が昼間・夜間部を合計して12名となったため、学生指導や事務的な作業などが分担して出来るようになった。</p> <p>(2) 2020年度からのカリキュラム改定に向けて現在、新カリキュラムの作成、シラバスの書式の改定、学校の3つのポリシーの作成など、それぞれに作業部会を作って進めている。</p> <p>(3) 入学してくる学生の中には精神面の弱さや、家庭内の問題を抱えている者も少なくないため、昨年度より外部の臨床心理士の方に1回/2カ月の頻度で来校頂き、相談日を設けて実施している。この内容については先生と学生間でやり取りしており、教員は感知しないという条件である。少しずつ利用する学生が増えてきている。</p> <p>(4) 臨床実習は新カリキュラムでは、地域見学実習を1週間実施する事になる。通所リハやデイケアなどである。現在は受け入れ可能な施設に依頼をしている段階。施設数としては充足する見込みである。</p> <p>(5) 国家試験対策については、過去の国家試験問題を使用したグループ学習を行う事に加え、卒業試験を課していることにより、現役卒業生の昼間部91%、夜間部83%、合計86%（全国の現役生の合格率は83%）とすることが出来た。 卒業試験では、その段階で一定の学力に達していない学生を留年とし、現在は学力の底上げを図るべく勉強会など実施している。</p> <p>(6) 就職について、学校においては、最終学年後期に就職説明会を2回、多くの施設の出席を得て実施しているが、学生の中には国家試験の合格発表後になってから就職活動を始める者もいる。しかし、相変わらず求人票は多く、前年度も最終的には国家試験合格者全員が、正規職員とし</p>	

て採用された。

4. 2018年度自己点検及び自己評価について（森倉）

2018年度自己点検及び自己評価（案）が配布され、内容について次回の委員会までに確認を行ってもらい、第2回学校関係者評価委員会において協議することが説明された。

5. 次回の日程について（森倉）

次回の日程が提案され、第2回学校関係者評価委員会を2019年8月8日13:00～14:00にて開催されることが決定した。

また、詳細については、後日連絡することが確認された。

6. 意見交換

(1) 新カリキュラム時に、学校としての3つのポリシーを掲示したいと考えている。(案)に対して、文字数をもう少し減らしてキャッチコピーのようにして分かりやすくした方が良いのではないかという意見が出され、検討事項となった。

(2) 教員が増え、連携の取り方が難しいと感じている、臨床の現場でも何か抱えている問題やそれに対してどのような取り組み・調整をおこなっているか。

職員間で何かあれば所属長に挙げ、所属長の判断で解決できないときは本部で対応するという流れが出来ている。

グループラインやフェイスブックなどで風通しが良くなるような方法を取り入れている。学校は閉鎖的になりがちだと考える。外部の学校との交流会や勉強会など、教員が教わる機会を経験するのも良いのではないか。

就業規則の中に協力的行動を求めるような内容を盛り込むことも必要なのではないか。

ストレスチェックをし、産業医に相談したり、人事評価制度も採り入れられ、細かく目標なども設定し、評価によって給料などに反映する形になっている。

などの意見を基に今後風通しを良くし、コミュニケーションをスムーズに取れるようにするための対策を検討していくこととした。

(3) 教員は科目担当の為、体調不良の際の対応が難しい。臨床現場では負担の軽減を含め、どのような対応をしているか。

社労士を入れて就業規則を作る事が必須と考える。

社労士を入れて就業規則を作ってもらえるよう上申していくこととした。

7. 閉会